

令和6年度 宇和中学校 第1学期学校評価 自己評価書

西予市立宇和中学校



1 学校評価の考察

(1) 前年度（同時期1学期）との比較から

今年度の1学期末の結果と、前年度同時期の結果を比較した。

今回の回答数は、教職員は県費負担教職員数「26名」、生徒は449名中「389名」、保護者は402世帯中「378名」であった。回答の集約状況は概ね良好であった。「令和6年度第1学期学校評価アンケート」の教職員、生徒、保護者のそれぞれの質問の合計が上記の数「26名」「389名」「378名」に満たない項目は、回答における選択肢の中の「0：分からない」を選んだ者の数を除いているためである。

教職員のみ17の質問項目を設けた。生徒と保護者は16の質問項目とした。結果については、項目によってそれぞれ微増、微減はあるが、例年通りの傾向であった。全体的には肯定的な意見が多かった。教職員の評価において、質問項目17の「業務改善」に関する質問においても良好な結果となっている。今後も引き続き、校務を整理し、教職員一人一人が働きやすい職場環境づくりに取り組んでいく必要があると考える。

(2) 項目別；考察「令和6年度分」

① 項目1（校訓のような生徒の育成）

教職員の評価が高く、校訓を意識した教育活動に取り組んでいる。その取組が、生徒の評価にもつながっている。今後も、様々な教育活動の中で、「心身を鍛え、自ら学び、つながりに生きる」場面を設定したり、ホームページや各種通信で、その取組や成果を紹介したりすることで、より高い成果を得ることにつなげていきたい。

② 項目2（学校に行くのが楽しみ）

生徒、保護者ともに、肯定的な回答をした割合が8割以上となっている。教職員の回答においても、肯定的な回答の割合が9割を超えており、概ね良好な状態と言える。ただし、今年度も引き続き、不登校生徒数の増加が課題となっている。生徒が前向きに学校生活を送れるよう、工夫ある取組を継続していきたいと考える。

③ 項目3（自主的な学習）

昨年度と同様、肯定的な回答の割合が低い結果となった。授業等にはまじめに取り組む生徒がほとんどであるが、自主的に学習に取り組むところまでは至っていない生徒もいる。生徒に学習習慣を身に付けさせるとともに、学ぶ意義等を理解させ、自らの学習をセルフマネジメントできる生徒を育成していくことが必要である。

④ 項目4（分かりやすい授業）

生徒の肯定的な回答の割合が93%となっている。教職員の肯定的な回答の割合

も100%となっており、生徒が授業の内容を分かりやすいと感じる授業展開が行えていると考える。半面、保護者の肯定的な回答は78%となっており、生徒、教職員の回答結果と大きな開きがある。授業においては、今後も引き続き、ICT機器を効果的に活用したり、話し合い活動を充実させたりし、生徒が「分かる」と実感できる授業の実施を継続していきたい。併せて、フリー参観日の設定等を検討し、授業の様子を積極的に保護者に開示し、学校の取組について保護者の理解を得られるような工夫をしていきたいと考える。

⑤ 項目5（充実した部活動）

生徒の肯定的な回答の割合が92%と高く、昨年度の結果を上回った。部活動担当者が、それぞれの部活動に所属する生徒、保護者と良好な人間関係を構築し、部活動経営に取り組んでいる。部活動をめぐる保護者の要望や、部活動に対する不適応を生じる生徒にも、適切に対応できていると考える。今後も指導方法や生徒への言葉掛けを工夫しながら、生徒一人一人がやりがいを感じる部活動経営に努めていきたい。

⑥ 項目6（話を聞いてくれる）

全校生徒449名（南予で最も多い生徒数）の規模で、96%の生徒が肯定的な回答をしており、教職員と生徒の間に、良好な人間関係が構築されていると考えられる。保護者の肯定的な回答も83%となっており、良好な結果となった。教職員は様々な業務を抱えながらも、学級、授業、部活動等において生徒としっかり向き合い、生徒の話に耳を傾けていると考えられる。また、不登校傾向の生徒とも、継続的に連絡を取り合い、関係を保つことができている。今後も粘り強く、生徒の話に耳を傾けることに取り組んでいきたいと考える。

⑦ 項目7（命の大切さ）

肯定的な回答をした割合は、生徒が97%、保護者が88%、教職員が100%という結果になった。心の健康教育講演会（SOS教育講演会）に継続的に取り組み、その成果もアンケート結果につながっていると考えられる。今後も、道徳や人権・同和教育を中心に、様々な場面を捉え、引き続き、命を大切にする教育を推進していきたい。

⑧ 項目8（いじめ・トラブルへの対応）

生徒、保護者、教職員ともに、肯定的な回答をした割合が高いが、生徒の27名、保護者の58名が適切に対応できていないと感じているところが課題であると考えられる。特にいじめに関しては、被害者の立場に立ち、決して許される行為ではないという認識のもと、毅然とした態度で対応すべきである。職員会や校内研修において、教職員の意識統一を図るとともに、迅速かつ適切な対応に努めていきたい。

⑨ 項目9（分かりやすい情報発信）

肯定的な回答の割合が、生徒で96%、保護者で89%、教職員で100%となっており、良好な結果となっている。ホームページ、連絡アプリ（すぐーる）、学級・学年通信、生徒指導通信、電話連絡、Google クラウドルーム等を用いて、素早く分かりやすい情報提供に努めたい。

⑩ 項目 10 (いけないことをきちんと指導している)

生徒の肯定的な回答の割合が 97%、教職員が 96%と、高い評価であった。保護者に関しても、肯定的な回答の割合が 87%となっており、概ね良好な結果となった。校内においては、教職員が共通の認識のもと、毅然とした態度で生徒指導等に取り組んでいる。今後も、教職員の指導が、生徒自身の規範意識の向上につながるとともに、生徒が主体的にきまりの意義を考えたり、お互いに声をかけあいながらルールを守ろうとしたりする態度が身に付いていくよう取り組んでいきたい。

⑪ 項目 11 (挨拶)

生徒会を中心に、「あいさつ日本一」を目指した取組を行っているが、活動を開始した当初に比べ、若干元気の良さが低下していると感じている教員が多い。生徒や保護者の評価結果は高いものの、更なるテコ入れが必要であると感じる。生徒が「やらされるあいさつ」ではなく、「自ら主体的に行うあいさつ」を身に付けることができるよう、教職員、生徒が一丸となって、様々な場面を活用しながら、あいさつの向上に取り組んでいきたい。

⑫ 項目 12 (清掃態度)

概ね良好な結果となっている。今後も引き続き、教職員が担当場所に素早く移動し、生徒の清掃態度を見守り、良かった点や反省点を確認するという地道な取組を継続していきたい。毎日昼休みに行う清掃活動だけではなく、ボランティア活動を行うことができる機会も、本校には数多く存在する。日頃の清掃活動で培った奉仕の精神を様々な場面で発揮できるよう、生徒への声掛けを粘り強く行い、ボランティア活動の活性化にもつなげていきたい。

⑬ 項目 13 (人権教育)

生徒と教職員の肯定的な回答の割合は高いが、保護者の評価が低くなっている。今後は、学校・学年だより等を活用した身近な人権問題や教育上の諸問題についての情報提供をはじめ、人権参観日における授業の公開、参観後の評価アンケートの実施、人権をテーマとした講演会の開催等、家庭に向けた啓発活動の工夫を図っていく必要があると考える。

⑭ 項目 14 (ふるさと学習)

生徒の肯定的な回答の割合が 96%、保護者の肯定的な回答の割合が 87%と、高い結果となっている。昨年度から始めたこの取組が、生徒にとってやりがいを感じることで活動になっていると考えられる。今後は、地域づくり活動センター等、地域の組織や人材との連携を更に強化し、より円滑にこの活動が進めていけるよう、体制強化に努めていきたいと考える。

⑮⑯ 項目 15 (生活の心得)、16 (服装規定)

肯定的な回答の割合が、生徒、保護者、教職員で約 90%以上となっており、良好な結果であった。昨年度は服装規定について、生徒や保護者の意見を取り入れながら、生徒が主体的にきまりの内容について検討する機会を設け、見直しを行った。現在の生活の心得や服装規定を基盤に、生徒指導体制を充実させるとともに、時代に即した適切な内容になるよう適宜見直し等を行っていききたいと考える。

⑰ 項目 17 (業務改善)

回答の平均値が 3.17 となり、昨年度から改善傾向が見られた。今後も、業務内容や学校行事等、必要なものと不要なものを整理し、教職員が働きやすさと働きがいを感じることができる職場環境づくりに努めていきたい。

2 具体的な今後の取組

(1) 学校全体での取組 (改善点の明確化、意識改革の必要性)

- ・ 生徒自身が、今日が楽しく、明日が待ち遠しいとすることができる学校づくり
学校行事やふるさと学習等、工夫ある教育活動を通して、生徒がやりがいと充実感を得られるような学校づくりを目指す。また、きめ細やかな教育相談等の充実と、生徒同士がお互いの存在を大切に、支え合うことのできる集団作りを行い、生徒の所属感の向上に努める。
- ・ 主体的な学習を促すための実践の工夫
宿題の量の調整・検討、荷物の量の軽減等を図りながらも、効果的な学習の指導のあり方を教職員で共有する。
ICTの活用により、分かりやすい授業を展開するとともに、継続ノート等を用いた反復練習や学び方の指導の今後の在り方を検討する。
- ・ 家庭において、人権課題について話す機会を増やしていく工夫をする。
- ・ 「あいさつ」および「清掃態度」の向上
挨拶と清掃態度の向上に向けて、教職員・生徒が毎日の自身の取組を見つめる。

(2) 学年部を中心とした「学校評価の考察と今後の取組」

< 3 年部考察 >

項目 2 「学校に行くのが楽しみ」…楽しいと感じている生徒は、おそらく友人関係がうまくいっている生徒であると思われる。友人との交流が楽しみな生徒は、たとえ成績が芳しくなくても、部活で活躍できていなくても学校が楽しい場所になるのではないかと。

項目 4 「分かりやすい授業」…授業を行う際、どこにターゲットを絞って授業を行うのかを教師自身が明確に持って教材研究や授業、配付プリントや ICT の工夫、個人での課題解決学習などをしていく必要がある。

項目 11 「あいさつ」…生徒の自主的なあいさつが少ない。時と場に応じたあいさつの方法、声の大きさなど考え、実行する力を身に付けさせたい。

→ 2 学期に向けた戦略

① 学校全体で取り組んだら良いと思うこと。

- まず人間関係作りの支援をすることが大切だと考える。生徒同士に加え、生徒と先生の温かいつながりを更に作っていく必要もある。
- 教師が一方的に説明する授業では、生徒は受け身になる。生徒が授業の中で主体的に考え、それをグループや全体に返していく授業を行うことが必要である。
- 教師の継続的な声掛け、気持ちのよいあいさつを実行するように意識して実行させる。

② 学年部を中心として取り組んでいくこと。

- 今後実施される運動会や修学旅行、文化祭などを通して、仲間づくりをサポートしていく。
- 教科を越えた教員間の情報共有を行う (ローテーション道徳などで学級以外の生徒を見ることもある)。また、積極的に他の教師の授業参観等を行う。

- 学校のリーダーの自覚としての実行力を高める。声の大きさ、気持ちのよいあいさつを実行させる。

< 2年部考察 >

項目 6 「話を聞いてくれる」…話を聞いてくれると感じている生徒が大変多い。

項目 11 「あいさつ」…前年度から比較すると、否定的な回答が増加している。しかし、生徒の肯定的な回答は決して低いわけではない。つまり、意識はしているということだと考えられる。だが、現在の宇和中のあいさつは、十分なレベルであるとは言えない。

項目 12 「清掃態度」…黙って掃除に取り組むことができているが、普段できていない箇所を見つけて隅々まで丁寧に掃除をすることはできていない。

→ 2学期に向けた戦略

① 学校全体で取り組んだら良いと思うこと。

- 引き続き、毎月行われている生活アンケート調査で上がってきた案件の聞き取りや、教育相談などを継続して、生徒の声がかかりと聞ける環境づくりを行っていったらよい。

- 生活委員会とも連携を図りつつ、あいさつについての取組を実践する。具体的には、2学期最初の中央委員会で、学校の顔である生徒会役員・各学級のリーダーである学級委員に対して、なぜあいさつを行うのか、徹底して話をする。

- ①自分への利点②周りへの利点、について話ができればと思うが、特に②に焦点を当てたい。道徳の授業の中で、あいさつについて意見を述べ合う際に、「自分にメリットがない」という意見が散見された。「自分のために」するものであるという意識がこのような状況を招いていると考えられるため、学校全体の意識改革を実践する。

- 教員が早く掃除場所に移動し、生徒たちの様子を見ながら、掃除の仕方を指導する。

② 学年部を中心として取り組んでいくこと。

- 思春期を真ただ中に迎え、人間関係や進路等で悩むことも多い時期である。普段の学校生活での様子や、些細なことでも、学年部全体で情報を共有しながら見守っていったらと思う。

- 2学期に生徒会を担うことが決まっている学年として、雰囲気作りの第一歩としてあいさつを大切にさせたい。「あいさつは、したほうが良い」とほとんどの生徒は知っているのに、綺麗ごとばかりが並ばないように、なぜするのかという指導を大切に指導に当たる。

- 各学年部で掃除場所に早く移動するように促す。

< 1年部考察 >

項目 3 「自主的な学習」…生徒の評価は去年と一緒だが、保護者と教職員の評価が下がっている。特に保護者の評価が下がっている。学校の不登校対策として宿題の出し方について検討し、学習していないと感じる保護者が増えたのではないかと思う。生徒は与えられた宿題だけをする生徒が多く、宿題の量に関係なく評価は変わらないのではないかと思う。

項目 4 「分かりやすい授業」…教師は 100%だが、生徒は 93%である。自己満足に終わらないよう教材研究、工夫をしていくことが必要である。

項目 6 「話を聞いてくれる」…生徒たちは教員に対してもフランクに話しかけることが多く、普段のコミュニケーションはよくとれていると思う。しかし、悩み

や何か問題が起こった時には大人を頼るのではなく、隠したり友達をかばって嘘をついたりする傾向にある。また自分に都合の悪いことにも、もっともらしい理由を付けて逃げたり隠したりすることが多い。日々のあゆみや教育相談など、教員と生徒一対一の環境になると、素直に悩みを打ち明けることができる。

→2学期に向けた戦略；

- ① 学校全体で取り組んだら良いと思うこと。
 - 宿題を増やすのは、負担に感じる生徒も多く、不登校にもつながるのでやめた方が良いと思う。授業改善に取り組み、主体的で深い学びのある学習を目指す必要があると感じる。また、生徒の興味関心を高める必要があると思う。
 - 分かる授業があって初めて学習意欲もでてくる。見取りをしっかりと、分かる授業の実践に努めたい。
 - 教育相談にかけられる時間が少なく、一人一人とじっくり話をすることができない。残りの人数を考えるといつも焦って話を進めなければならず、生徒の本音を聞くところまで持っていけていない。担任が教育相談にかけられる時間を確保していく必要がある。
- ② 学年部を中心として取り組んでいくこと。
 - 学習に取り組む姿勢や習慣の大切さを生徒に伝え、自主学習に取り組む意欲を高める必要がある。
 - 授業が分かるためには、聴く力をつけることが大切である。先生や友達の説明や意見をしっかりと聴かなければ自分の考えをもつことはできない。
 - 学級担任だけでなく、学年部の先生方が各学級を見て回ってくださっており、授業だけでなく休み時間や給食などの際にも生徒とコミュニケーションを取ってくださっている。コロナ禍もあり対人関係をうまく結べない生徒も多い。大人とのコミュニケーションを取ることが下手な生徒が多いと感じているので、多くの先生方に関わっていただけていることをありがたく思う。今後も学級等関係なく、なるべく多くの大人とかかわる時間を増やすべきだと考える。